

課題1 段落相互の関係の把握

県の通過率 49.9%  56.2%

問題 四 2

平成22年度に新しく出題した問題であったが、平均通過率が49.9%と低かった。平成23年度は、56.2%と上昇したものの、依然として60%を下回っている。

これまでの誤答の状況を見ると、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて段落相互の関係を捉えることができていない。

<昨年度との比較>

年度	通過率(%)
平成23年度	56.2
平成22年度	49.9

誤答と無解答	割合(%)
1 三, 三	17.7
2 四, 四	14.2
3 二, 二	4.6
4 上記以外の解答	5.7
5 無解答	1.6

ところが、正解は「夏」である。実は、チューリップのツボミは、球根の中で、花が咲く前年の夏にできるのだ。六月下旬から七月上旬にツボミができ、七月中に花びら、メシベ、オシベが球根の中で形成される。

次の の段落は、 段落、 段落のいずれかの段落の後ろに入ります。どの段落の後ろに入れるのが最も適切ですか。その段落の番号を書きなさい。

田中修 「都会の花と木」による。
※資料編 参照

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

誤答1・2・3

文章全体を読み、要旨を捉えることができていない。また、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けることができていない。【36.5%】

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 既習の教材等を利用して、段落相互の関係には、どのような関係があるのかを押さえましょう。
- 段落相互の関係を図や表にして、矢印などの記号を使って段落の対応関係を整理させましょう。

- 教科書教材以外の説明文を取り上げ、筆者の主張が書かれている段落、主張の根拠となる段落などを捉えさせましょう。



課題3 行書の基礎

県の通過率 54.2% → 56.9%

問題 二 6

平成14～22年度の調査結果によると、問題の傾向によって通過率が違い、行書の基礎的な知識の定着が不十分である。

平成23年度は、昨年度に比べると通過率が上昇したものの、依然として行書の特徴を捉えることに課題がある。

＜経年比較＞

総画数を捉える問題		行書の特徴を捉える問題	
年度	通過率 (%)	年度	通過率 (%)
—	—	平成23年度	56.9
—	—	平成22年度	54.2
平成20年度	79.5	平成21年度	69.8
平成16年度	83.0	平成19年度	64.4
平成15年度	67.0	平成18年度	63.6
平成14年度	80.6	平成17年度	47.8
上記年度の通過率の平均	77.5	上記年度の通過率の平均	59.5

主な誤答と無解答	割合 (%)
エ	17.1
イ	13.8
ア	11.4
無解答	0.7

次のア～エは、それぞれの漢字を
行書で表しています。誤って書かれ
ているものをつ選び、その記号を
書きなさい。

ア 花
イ 線
ウ 拾
エ 清

誤答エ・イ・ア

点や画の連続・省略・筆順の変化等といった行書の特徴を捉えることができない。

【42.3%】

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント



- 出来上がった行書の字形を覚えさせるだけでなく、点画が連続する過程など、楷書からどのように行書に変化するかを明確にして行書の特徴（点や画の方向及び止めや払いの形の変化、点や画の連続・省略、筆順の変化等）を捉えさせ、その合理性や効率性を理解させましょう。

- 漢字の指導や「書くこと」の領域における言語活動の際などに、書写で学んだ行書の特徴を踏まえさせて文字を書かせましょう。

また、日常生活でよく書く言葉（氏名、住所、手紙で用いられる時候のあいさつなど）を練習させ、様々な機会を捉えて書かせましょう。

<事例紹介> 広島市立戸山中学校（広島市研究推進地域）

ポイント

硬筆で**行書の特徴**
を確認させる。



硬筆で、楷書との違いを意識させましょう！

ポイント

毛筆を硬筆に生かす。



毛筆で行書の文字を書いた後、同じ文字を硬筆で書かせる指導もしています。

その他に、機会を捉えて、行書を使って文字を書かせる指導を行っています。

<事例紹介> 安芸高田市研究推進地域

ポイント

課題解決型の書写指導をする。

（例）第2学年 2時間目／全4時間

（生徒は1時間目に、行書の基礎について確認し、最初の作品を書いています。）

（本時の目標）行書の特徴と運筆の重要性を理解し、運筆を意識して書くことができる。

- 最初の作品と手本を比較する。→課題となる部分をカードに記入させる。
- ペア、グループで「課題のどこをどのように改善したいか」を説明させる中で、運筆（筆順の変化や点画の省略・連続等に伴う筆の運び）を意識することの重要性に気付かせる。
- 運筆についての課題を意識しながら、部分練習をさせる。
- 今日のまとめの1枚を書かせる。
 - ↓
 - 最初の作品と比較し、自己評価させる。
 - 班内で交流し、最も改善が見られた作品を全体に紹介させる。

自分で課題を設定することで、生徒自身が行書の特徴に気づき、どのようにすればこれらの特徴を生かして「読みやすく早く」文字が書けるのかを考えるようになります。

